

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872005004		
法人名	社会法人 愛信会		
事業所名	グループホーム いちょうの木		
所在地	茨城県つくば市上岩崎835-6 (電話) 029-840-1050		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年4月22日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくばシティア内科クリニック いんなみ歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

これからの高齢社会に向け必要性を感じ立ち上げたグループホームは、広い敷地内にゆったりしたたたずまいが印象的でホームある。日中は施設せず天気の良い日は利用者は自由に入出し気分転換を図っているとの事。地域の老人会、デイサービス利用者との交流が盛んである。ホーム主催の秋祭りには小学生75名ほどのボランティア参加、模擬店、ギター発表等地域住民と利用者、家族が楽しんでいる。調査日には下校途中の小学生が「トイレを貸してください」と訪れたのを見て、地域に開放したホームだと感じられた。利用者の趣味を活かした支援が日々行われ、暖かい家庭のようなホームである事が感じられる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の災害時に関する改善事項は職員に報告して検討を行い、指摘の備蓄は1日分をそろえ、それ以上は法人の特養と、一体で対応出来るようにした。災害時の避難訓練は利用者を配慮して行っていないが、民生委員、地区長へ協力依頼はしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に関し職員の意見を聞きつつ、管理者も職員として日々ケアにあたっている為、職員の立場から記入した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに行政、地区長、民生委員、家族、管理者、法人特養施設長の構成で開催され、主な議題はホームでの取り組み状況、外部評価の報告を行った。席上出た意見等は職員には申し送りや議事録の回覧により共有しケアに活かされるように努めている。行政には議事録を提出している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族、利用者の意見、苦情、不安を直接、話してもらえようように日ごろからのコミュニケーションに努めている。苦情担当窓口、解決担当者、第三者委員を書面にて明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区老人会との交流、ボランティアの発表の場や地区の行事(保育園、幼稚園行事、夏祭り等)やホーム主催の秋祭りには多数の地域住民の参加があり利用者は楽しみにしている。昨年度は要請依頼はなかったが中学生の体験学習の場として提供は可能である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほかに開設時に管理者、職員と作り上げた「地域の中で利用者はその人らしい生活を送り、地域住民が気軽に立ち寄れるようなホーム」理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の留まる事務所、廊下に掲示し理念の実践にむけてケアに努めている。開設以来の職員のため、確認等は取らなくても理念を念頭に置きケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区老人会との交流、ボランティアの受け入れ、保育園、幼稚園との交流に努めている。ホーム主催の秋祭りには地域住民の多数の参加があり、利用者も楽しみにしている。運営推進会議のメンバーとの餅つきを開催。近隣より野菜やお花をいただくこともある。昨年度は要請依頼はなかったが中学生の体験学習の場として提供可能である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価結果を管理者、職員で検討し改善に努めた。自己評価は職員の意見を聞きつつ管理者も職員として現場に入っているので職員としての立場で管理者が記入。評価を実施する意義は職員も理解していることが聞き取りから伺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に行政、地区長、民生委員、家族、管理者、特養施設長の構成メンバーで開催。利用者の状況、ホームの取り組み、評価結果等を報告。その場で出た意見は日々のケアに反映するように努めている。議事録は行政に提出している。		

茨城県 グループホームいちょうの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月つくば市地域密着型サービス連絡会に行政担当者も参加し情報交換を行っている。相談や連絡には出来るだけ行政に出向き連携をとっている。介護相談の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会が頻繁にあるため金銭報告(出納書で確認し領収書を渡し、コピーを保管)、利用者の状況についてはその都度伝えている。緊急時の電話連絡をした場合はきちんと記録に残していることが確認された。菜の花ユニットは3ヶ月ごとにミニ新聞を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族面会時に話し合う機会をとっている。今まで、運営に関する家族等の意見はないが、ケアに対する要望は職員間で話し合っている。意見の言い出しにくい家族に対する配慮として苦情苦情窓口、解決責任者、第三者委員を書面にてきちんと明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行われていない。離職を防ぐ対策として、管理者は職員の話に耳を傾けている。待遇、処遇面の他、職員間の和を大切にしているとの事である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体のOJTシステムが出来ており職員のレベルに合わせた研修に参加し、受講後は報告書を提出し全職員に回覧する仕組みになっている。個人的に受講した研修の資料もファイルし全職員と共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催しているつくば市地域密着型サービス連絡会及び勉強会(年5回程)を通じて他の事業所との交流は出来ている。他事業所間の相互訪問を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように、ホームへの見学、利用体験、宿泊体験を行ってからのサービス開始が出来るように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は喜怒哀楽を共にしながら、利用者の残存能力を無理なく発揮できるように支援している。昔話を聞いたり、生活の知恵(袋詰めの味噌をきれいに出す方法等)を教えてもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントから利用者の意向、思いを把握している。日々の利用者の会話や表情から得た気づきを生活記録に残して全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見や意向を充分聞き、主治医と相談しながらケアプランを作成している。ケアプランには週2回の看護師訪問時の看護記録も参考にサービス内容に反映している。作成後は利用者、家族に同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	24時間アセスメントシートを記録し、利用者の状況を常に把握している。変化があった場合はその都度会議で話し合い、現状に応じた新たな計画を作成し家族の承諾を取っている。認定3ヶ月ごとに定期的なモニタリング、評価を行い見直している。		

茨城県 グループホームいちょうの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の事業所と連携しながらのグループホームとしての支援を行っている。体験入居や家族宿泊の場としてゲストルーム提供。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までと同じかかりつけ医に家族付き添いで通院している。緊急時には職員が付き添い受診している。週1回協力医療機関、月一回在宅医療機関の医師の往診、週2回看護師の訪問がある。受診時はそれぞれにお互い報告をしている。協力医療機関の看護師、医師は24時間対応可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方についてはホームとしての指針もあり家族の同意書ももらっているが、家族の思いはその都度変わると思うので、繰り返し話し合いの必要性は感じている。		利用者の重度化、終末期のあり方について、今後は管理者と職員が十分に話し合い、全員で方針を共有することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけは全くなく、利用者を大切に生活している様子を調査時には感じた。書類や個人情報に関する記録は事務室のキャビネットの中や各ユニットの戸棚に保管している。家族との話し合いは事務所にて行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者によって起床時間、食事時間はまちまちでその人に合ったペースで過ごしている。利用者の希望に添えない場合はきちんと理由を伝え、納得してもらえるよう対応している。		

茨城県 グループホームいちょうの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう職員と一緒に準備、食事をしている。メニューは季節のものや利用者の希望を聞いてを提供するようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日、入浴は可能である。時間帯も希望により対応し、入浴を楽しめるように支援している。季節に合わせた菖蒲湯、ゆず湯で楽しんでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を楽しみながら活かせるよう、生け花、手芸、雑巾縫い、カルタ、塗り絵、計算、漢字、大正琴、ハーモニカ、習字、洗濯たたみ、野菜の収穫等で家庭で過ごしているような雰囲気作りに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にあわせできるだけ散歩に出かけている。買物、地域の催し物への参加、デイサービス利用者との交流等積極的に出かけている。食材の買出し、外食に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず自由に入出りできるようになっており、近隣の住民、交番、消防署、商店等の協力も得られる体制になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報訓練のみの実施にとどまっている。利用者が不安になるのでは？との思いから利用者と一緒に訓練は、今年度1度行っています。災害時には近隣の協力を得られるように努めている。ホームでの備蓄品は1日分ではあるが法人の特養と一体で対応出来るようにしている。		夜間想定を含めた避難訓練を年2回は実施し、利用者と家族、職員の不安解消に努めてほしい。

茨城県 グループホームいちょうの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の特養、管理栄養士の献立を参考にしながら、メニューを作成。献立表に詳しく分量が記載され、摂取量、水分量は個人個人記録に残している。毎月の体重の変化に注意を払い、医療機関の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはコタツ、ソファ、ピアノ等が設置され温かみのある共有空間となっている。廊下のところどころに置かれた椅子に利用者がのんびり座って談笑している光景があり、それを職員は楽しそうに見つめているのが印象的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の思い出の品々が持ち込まれ、家庭の中にいるように心地よく過ごせるよう工夫されていると感じた。		